

優良農家の紹介

規模拡大に対応したストック栽培の労働軽減「花まるミセス香りグループ」の事例

一宮町のストック生産は、20戸、6.4ha栽培され、関西市場へ年間170万本を出荷している。平均作付面積は32a、規模拡大農家9戸で全体生産の70%を占める状況となっている。



図 花まるグループによる採花用台車の検討

この産地状況のなかで労働過重が問題となり、解決に向け活動する女性組織「花まるミセス香りグループ」8名（代表岡真理子）の取り組みを紹介する。

1 ストック栽培における労働面の課題

ストック栽培は、計画的に播種・八重鑑別・定植・管理等を行い、11月から5月まで安定出荷を行っている。しかし、家族労働一人当たり15aであった作付面積が、規模拡大農家では25aまで増加している。この現状のなかで、労働面では以下の課題が発生している。

- ① 1作目の採花と2作目の定植が重なる1月中旬と2作目が一斉に開花する3月～5月の労働過重
- ② 施設の高度利用上、施設内通路幅を狭くするため管理作業や採花作業時の無理な姿勢の継続
- ③ 八重鑑別、定植作業が集中する9月上中旬の労働過重

これらの課題解決に向け、一宮町花き園芸協議会ストック部会も巻き込んで改善に取り組んでいる。

2 具体的な労働改善の取り組み

① まずは、採花・選花作業の労働軽減

採花・搬出作業の労働低減のため、採花時に利用できる台車等の改善に取り組んでいる。ストック特有の栽培状況を踏まえて、ベットの跨ぐ台車を検討し、軟弱野菜等で利用しているアルミ製台車を農林水産技術総合センターとメーカーの協力を得て、改良、試作検討を重ね、ストック用採花台車として改造し、導入している。また、採花台車をスムーズに使えるように通路幅を広くとるなど栽培ベットの改良も行っている。

選花作業は、各農家で選花場のレイアウトを描き、省力機械の導入や作業台等の改善を進めている。

② 各農家での労働記帳の実施と労働分散の取り組み

各農家自ら、農作業日誌を記帳して誰が、どの作業に、どれだけ働いているかを把握している。農家間で分散の必要な作業について話し合いを持ち、作付計画や栽培方法等の検討に役立てている。

③ ストック直播栽培等の導入や平畝栽培の検討

記帳データや家族労働力の状況により異なるが、9月の労働集中を回避するため、直播栽培やチューブ灌水の導入、平畝栽培の検討など実践可能な労働軽減対策に意欲的に取り組んでいる。

また、会員が集まると、つらい姿勢が続く八重鑑別作業や中耕作業の改善といった次の取り組み課題にも話が弾んでいる。

飯田 親弘（北淡路普及センター）

ひょうごの農林水産技術 No.128

平成15年7月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）